

第5回 Bioesthetic Dentistry の第二原則 ：固有感覚性アンテリアガイダンスの確立

荒谷昌利

埼玉県開業 荒谷デンタルクリニック
連絡先：〒344-0061 埼玉県春日部市粕壁1-9-46

Part5. Proprioceptive Anterior Guidance : PAG

Masatoshi Araya



連載予定	第1回	顎口腔システム
	第2回	予備的咬合診査
	第3回	Bioesthetic Dentistry の第一原則：Stable Condylar Position (SCP)
	第4回	下顎の回避パターン (Avoidance Pattern) とコンタクトガイダンス (Contact Guidance : CTG)
→	第5回	Bioesthetic Dentistry の第二原則：固有感覚性アンテリアガイダンス (Proprioceptive Anterior Guidance : PAG) の確立
	第6回	Bioesthetic Dentistry の第三原則：遺伝的歯冠形態 (Genetic Tooth Form)
	第7回 (特別企画)	Bioesthetic Dentistry におけるフルマウス・リコンストラクション

はじめに

自然における最高レベルで健康な顎口腔システムの姿を深く調べていくことは、それ自体、行く手に多くの発見を伴う果てしない旅のようである。その旅に必要なものは、自然に対する好奇心と理解への飽くなき探求心だけである。驚異の蕾が開くとき、われわれ生物学に生きる歯科医師は、今まで不可能であると認識されていたことを実現できる可能性がある。今回は、咬合に関する固定観念というサングラスを外し、人間の顎口腔システムにおける、誕生から永久歯列完成までの約12年にわたる神秘的で、奇跡的なドラマを眺めていくことにしよう。

1. Proprioception (固有感覚) とは

生体に備わる感覚の種類を感覚器の存在部位に従って分類すると、以下の3つのグループに分けられる。1つ目は嗅覚、視覚、聴覚、平衡感覚、味

覚などの脳神経が関与する感覚で、これらは「特殊感覚」と呼ばれる。2つ目は自律神経が司る「内臓感覚」と呼ばれる感覚で、内臓痛覚と臓器感覚からなる。3つ目は、感覚神経が司る身体組織、すなわち皮膚、粘膜、筋、腱、骨膜、関節囊などに存在する、さまざまな受容器の興奮が体性感覚神経によって中枢に伝えられて生じる感覚で、「体性感覚」と呼ばれる。この体性感覚のなかで、生体自らの運動によって、主として関節や筋などに存在する深部受容器が興奮して生じる感覚を proprioception と呼ぶ。Proprioception という語は、ラテン語で「自己自身の」を意味する“proprius”を語源とする生理学用語で、固有受容とか固有(受容)感覚と訳される(以下「固有感覚」)。

たとえば、目を閉じて両手をたたき合わせてみる。特に驚くことではないであろう。しかし、これを実行するためには、どの瞬間においても目の前に広がる透明な三次元空間座標上のどの位置に左右の手があり、どのようにそれらの手を動かせばよいのか、